



## 第9回グッドライフアワードにおける環境大臣賞の取組（11件）

### 最優秀賞：自然を傷つけない屋根上太陽光発電とグリーンテックで環境に優しいエネルギー循環の実現

【概要】商業施設や物流施設といった既存施設の屋根を利用して、分散型太陽光発電所を建設。屋根を活用することで、土地を切り崩さず、自然環境に負荷をかけずに再生可能エネルギーの利用を促進している。さらに、需要・発電予測等を一元的に管理するシステムを構築し、発電した再生可能エネルギーを効率的に利用できるようにしている。

（実施主体：株式会社アイ・グリッド・ソリューションズ 場所：全国）



### 優秀賞：海のゴミを資源に～漂着海藻から「アルギン酸」を生み出す世界トップメーカー～

【概要】生きた海藻ではなく、浜辺に打ち上げられた「漂着海藻」を原料に、天然食物繊維「アルギン酸」を日本で生産。電力・熱源・化学薬品を極力必要としない製造方法を編み出して環境負荷を抑えると同時に、継続的かつ安定的にチリの漁民から海藻を買い取り続けることで、投機的な海藻乱獲を抑制し、漁民の貧困対策にも貢献している。

（実施主体：株式会社キミカ 場所：千葉県富津市（及びチリ共和国））



### 優秀賞：池ヶ原湿原の環境保全活動を発信！～ヨシストローで地球環境保全もヨシ！～

【概要】年間を通し、県自然保護センターの協力の下、動植物の個体数調査や水質調査、湿原植物の生長の妨げになるヨシを刈る環境保全活動を展開。さらに3年前よりプラスチックごみ問題解決の糸口とすべく、刈ったヨシを活用しヨシストロー製作を始めた。環境に優しく再利用が可能なヨシストローを通し、プラスチックごみ問題解決の必要性を様々な場面で提言し、地域環境保全活動を展開し次世代育成にも努めている。

（実施主体：勝山市立平泉寺小学校 場所：福井県勝山市など）



### 優秀賞：TOKYO WOODの家～多摩の檜でつくる東京の家～

【概要】地産地消の家造りを通じて「森林の健全なサイクル」「CO2排出量削減」という環境に寄与した家造りに取り組んでいる。多摩エリアの林業会社、製材所、プレカット工場、工務店がチームになり、地域の循環型社会形成をつくり、ビジネス性・ソーシャル性を兼ね備えたビジネスモデルを展開している。

（実施主体：株式会社小嶋工務店 場所：東京都、神奈川県、埼玉県）





# 第9回グッドライフアワードにおける環境大臣賞の取組（11件）

## 企業部門：木材を利用した地盤補強「環境パイル」で地中に炭素貯蔵 ～森林を地中に～

【概要】地盤補強材として一般的なセメントや鋼材を間伐材に置き換える「環境パイル工法」を開発。国産材の利用促進に繋がると共に国内の林業の活性化に寄与することになり、日本の森林の保全にも寄与している。



（実施主体：兼松サステック株式会社 場所：全国）

## NPO・任意団体部門：スマートグッドライフ湘南物語 ＜SDGsで取組む脱炭素社会づくり＞

【概要】湘南地域で、SDGsの目標のうち気候、エネルギー、健康、教育、まちづくり、パートナーシップに取組む。地域における普及啓発活動により、脱炭素社会づくりに向けた課題について、SDGsを通じ解決を目指す。



（実施主体：湘南・省エネネットワークキング 場所：神奈川県 湘南地域）

## 地域コミュニティ部門：「森里海ひといのちめぐるまち」の実現を 目指して～産学官民が連携した生ごみの再資源化～

【概要】東日本大震災の被災時、それまで町外から調達していた電気・石油・ガスの入手に困難を来した経験から、バイオマス産業都市構想を定め、生ごみやし尿汚泥を電気や液肥に変換するバイオガスプラントを開所、地域内での資源循環の取組みを開始。



（実施主体：宮城県南三陸町 場所：宮城県）

## 自治体部門：人口減少先進地の挑戦！地域を超えて支え合う、「お互いさま」が広がるプロジェクト「ヒダスケ！」

【概要】市民の「困りごと」と参加者の「お助け」が循環することで、地域との交流と支えあいを創出。参加者に、野菜等のお礼や電子地域通貨を使った「オカエシ」を用意するなどによって、地域経済の一助にもなっている。



（実施主体：岐阜県飛騨市 場所：岐阜県飛騨市）

## 学校部門：「捨てればゴミ、活かせば資源」プロジェクト ～美しい地球を次世代に～

【概要】天ぷら油や不要な油で電気を作る「バイオディーゼル発電機」や排気ガスが出ない環境に優しい「電気自動車」、「プラスチックゴミ」から発電機の燃料になる油を作る「プラスチックゴミ油化装置」も製作。停電時の復旧にも利用して地域の防災にも貢献。



（実施主体：大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程 場所：大阪府及び被災地）

## 個人部門：Fairy forest～もったいないに架け橋を～

【概要】食品ロスを減らし、持続可能な社会を実現させたいという思いから、豆腐屋で発生する産業廃棄物の「おから」に注目し、高校生が個人で、雪花菜のグラノーラを開発。在来種の大豆からできたおからと有機オートミール、国産米粉のみで作る。販売収益は子ども食堂へ寄付。



（実施主体：山崎佐知子 場所：東京都）

## ユース部門：傘のシェアリングサービス「アイカサ」

【概要】突発的な雨にもビニール傘をその都度購入せず、アイカサをレンタルし、雨が止めば最寄りの傘スポットに傘を返却できるのが特徴。傘をシェアし使い捨て傘ゼロを実現する社会づくりをミッションとしている。



（実施主体：株式会社 Nature Innovation Group 場所：全国）